

2023年度商社リーグ 第1回代表者会議 議事録

| | |
|-------|--------------------------|
| 日時 | 2023年9月12日(火)19:30-21:00 |
| 会場 | ZOOM |
| 出席チーム | 下記参照 |
| 欠席チーム | なし |
| 議事録 | 日鉄物産/川上、竹内 |

| 議題 | 出席者 | | | |
|---|---------------------------------------|---|--|---|
| 1 阪和興業へのペナルティ 2 グ라운드注意事項の確認、振返り 3 クモの巣グラフの共有 4 役員会コメント | 役員会 丸紅 豊田通商 阪和興業 双日 兼松 | 金田、高柳、野間、浅井 佐川 小池、藤井 中屋、上田、二瓶 中井、佐藤 曾根原、浅川 | 三井物産 伊藤忠商事 日鉄物産 住友商事 JFE商事 | 梶野 山田、小坂 川上、竹内 福井、宮川、小山 小笹、椎原 |
| 1 対応事項 | 内容 | | 期日/担当 | |
| ① 運営要綱の修正、再送 | モニタリング対象チームとして阪和興業を追加する | | 即時/役員会 | |
| ② 阪和興業への提出フォーマットの共有 | 阪和興業に対し前例に基づくフォーマットの展開を行う | | 即時/役員会 | |
| ③ 運営要綱への署名、反省文の提出 | 登録メンバーのうち13名分の運営要綱への署名、反省文の提出 | | 9/20(水)/阪和興業 | |
| 2 決定事項 | 内容 | | 期日/担当 | |
| ① 阪和興業のモニタリング対象チームへの追加 | 年間不可日申請における不備により阪和興業をモニタリング対象とするもの | | 役員会 | |
| 3 情報共有及び注意喚起事項 | 内容 | | 期日/担当 | |
| 4 意見交換及び審議事項 | 内容 | | 期日/担当 | |
| ① 三井物産vs兼松時のMC不宣誓の対応 | 同試合にてMC不宣誓、試合チームのMC評価でのチェック漏れが発生 | | 役員会 | |
| 5 講義及びその他 | 内容 | | 期日/担当 | |

<内容>

1. 阪和興業へのペナルティ

- 役員会/高柳 部員の冠婚葬祭、都リーグ以外は年間不可日として認められない。
阪和興業の年度不可日申請内容に関して、役員会で協議し、モニタリング対象とする事となった。
今後の試合運営、リーグ運営においてモニタリングを実施し、再度運営要綱に反する事象を引き起こした場合は除名とする。
- 阪和興業/上田 運営に迷惑を掛けずに商社リーグに参加していきたい。
運営要綱には目を通していたが、結果的に不可日が多くなってしまった。
- 役員会/高柳 部員以外の結婚式に部員が多く出席するという理由で、10月に3日程、12月に3日程、2月に1日程を不可日として申請した。
この申請内容は運営要綱に反するものとして、役員会で協議しモニタリング対象とすることとした。
- 阪和興業/中屋 運営要綱を把握していたが、部員の一部のみが運営に携っており、他の部員にリーグ理念、意義が伝えられていなかった。
モニタリング対象であることを真摯に受け止め、リーグに所属している意義を示すために心を入れ替えて取組んでいきたい。
- 役員会/高柳 チーム内のオペレーションはどのように行っていたのか。
- 阪和興業/中屋 昨年は3-4名で対応していたが、人事異動もあり最終的に2名でのオペレーションになっていた。
引継ぎにも不備があったが、今年は1-2年目も巻き込んで対応していきたい。
- 役員会/金田 会長を25年以上を務めているが、ここ2-3年は後ろ向きな話が多いと感じている。
その背景には、コロナ禍に直面した点、各チームの部員数が減っている点、参加者の当事者意識の低い点、があると捉えている。
リーグ立上げ当時も同じ取決めでやっていたが、30チームほど参加チーム中、問題を起こすチームは1チーム程度だった。
阪和興業はフットサル大会の運営業務も至らぬ点が多かったが、それ以降も改善が見られていない。
阪和/上田氏は「不可日日数が多かった」という説明をされていたが、そうではなく運営要綱に則っているかどうかポイント。
フットサル大会の運営から一貫してパフォーマンスが低い。都リーグでは不可日は通用しない。
全チームが協力しリーグを運営するというのが商社リーグの意義だが、運営要綱に則った取組みができないのは非常にレベルが低い。
このレベルの話で役員会、代表者会議で時間を割くのは勿体なく、本来はより発展的な議論の時間に充てられるべき。
- 阪和興業/上田 商社リーグの意義に対する認識が甘かったため、今後チーム内で見直す必要がある。
- 阪和興業/中屋 商社リーグに対する姿勢が薄れている点は自覚している。今年はしっかりコミットして来年は参加可否を改めて検討したい。
- 役員会/金田 商社リーグに対する姿勢が薄れているのになぜ今年は参加するのか。
- 阪和興業/中屋 先輩たちが築いてきた歴史を今すぐに途絶えさせる訳にはいかないため。
- 役員会/金田 その姿勢は大事だが、For meの視点になっている。その分もしくはそれ以上に役員会も各チームに対しフォローしてきている。
役員会や幹事がいてこそ今があるが、年々商社リーグに対する姿勢が薄れてきている要因はどこにあるのか。

| | |
|---------|---|
| 阪和興業/中屋 | 私含め個人個人の気持ち、意気込みが薄れている。 |
| 役員会/金田 | 兼松には1-2年前に対応不備があった際に全参加メンバーに運営要綱にサインさせて、反省文を書かせた。 ※兼松代表者は2年目だったため、詳細認識はなし。 都リーグは新品ボールの袋が取れていただけで不戦敗になる。商社リーグは商社マンが自主運営で開催しているリーグ。 発展的に解散することを検討する岐路に立たされている。 ここ3年間は運営面での対応がひどすぎる。商社マンはコロナでもウクライナ紛争でもどんな状況でも対応していくもの。 阪和興業の直近の試合は、9/16、9/30の2試合。 参加者全員揃えて、運営要綱にサインさせるくらいやらない、と今後同様の問題が起きかねない。 先輩達が作ってきたものに対して低いレベルでやるのは申し訳ないというのは賛成できるが、一つひとつのコメントに説得力が欠ける。 |
| 阪和興業/中屋 | シーズン中の脱退は役員会、各幹事に迷惑が掛かってしまう。 自分で口にするのは憚られるが、できないことはないと思っている。 |
| 役員会/金田 | できない訳がない。商社マンであれば、5分で運営要綱を読んで不可日申請は当たり前に行ける。 シーズン中の脱退に迷惑を掛ける、というよりはむしろ逆に、再発するより今やめてもらった方が役員会、幹事としては断然楽。 商社リーグは独立系サッカーリーグの中では一番クオリティが高いと言われている。 |
| 役員会/高柳 | 2021年度の兼松の問題は不可日として申請を行っていなかった日程に於いて、直前で試合への不参加表明を行った。 それに対して、役員会として部員全員に運営要綱にサインさせて、始末書を提出させた。 |
| 役員会/金田 | 兼松よりは軽い印象。そのため、登録メンバー26名の半分である13名分の運営要綱へのサインを提出する。 商社リーグは互いに高め合っていきたい組織の中で、今回の話はレベルが低すぎる。 組織としてみつともないことをしたら、組織全体で気を引き締めていかなければならない。 9月20日までに13名分の署名、反省文の提出が必須。13名はマストだが、多い分には構わない。 30分あれば、精読のうえ150字以内の反省文を書くくらいはできるはず。 これまでの話を踏まえて、各副幹事よりコメントをいただきたい。 |
| 日鉄物産/竹内 | ML作成・議事録作成を担当しているが、他人事ではないということを強く感じた。 今年は新メンバーがいるが、2,3年前は人繰りに苦しんでいたもので、理解はできる。 今年から各年代で代表を設け、上と下で分離しないよう意識し、コミットメントを増やしていくことを掲げている。 阪和興業の説明に関して、不可日が増えたことに対する反省、「リーグをやめることが迷惑になる」という考え方は聞いていて疑問に感じた。 今回の会議内容をチームで共有し、再発防止を徹底すべき。 |
| 双日/佐藤 | 試合結果集計を務めるが、各チームのクオリティが大事である事は身に染みて感じている。 阪和興業の問題は理解できるが、だからといってクオリティを落としてはいけない。 リーグに関わる者に対して迷惑を掛けない様な取組みを部内で徹底するべき。 例えば、チームメンバーでミーティングを開くことなどが考えられる。今回の発言を以って、自分自身の責任を再認識して今季取り組んでいきたい。 |
| 役員会/金田 | サッカーをやりたいだけでは商社リーグは成り立たない。参加と運営の両軸でリーグは回っている。 やると決めたら、覚悟を決めてやって欲しい。中途半端にやるべきではない。 |
| 兼松/曾根原 | 今回の件は、全チームにとって耳が痛い話だと思う。 今年2年目だから、前任の田村より引き継いで、今回副幹事を務める。 本日の会議は非常に有意義で、改めて気を引き締めて取り組んでいきたい。 |
| 役員会/金田 | 不可日申請、試合前宣誓も独自ルールを設定し、商社リーグの価値を追求しているが、 現状しっかりとその意義を理解し、参画しているチームは5チームくらいしかない。 各部員のマネジメントは各代表者の役割であり、それがリーダーシップである。 こういった問題が続くようであれば、今季で商社リーグは終わりにする。 期日までに阪和興業の提出が足りない場合は、30日の試合は没収試合にして対応する。 |
| 役員会/高柳 | 運営要綱にモニタリング対象チームを記載し、参加者に再送する。 |

2. グラウンド注意事項

| | |
|----------|---|
| 役員会/高柳 | みらい平グラウンドは隣接する工場にボールが入った際に勝手に取りに行くと、警備アラームがなるため、今年度からはボールが入った場合でも勝手に取りに入らないよう同意書を提出することとなっている。ペナルティとして、5000円の罰金、一か月間のグラウンド利用禁止、の2点が設けられている。 |
| 三井物産/梶野 | 同意書はマネージャーズMTGの際に、兼松代表者と確認し、事務所に提出した。 工場に入ったボールは事務所に連絡済みで現在対応中。 |
| 兼松/曾根原 | 兼松がグラウンド利用責任者だったが、事務所で同意書を配布いただいた。 兼松主審時にはいくつか工場にボール入っていた印象だが、その後のトレースはできていない。 |
| JFE商事/椎原 | ボールには名前記載していたため、事務所より連絡いただき、後日取りに伺う。 |
| 日鉄物産/竹内 | マネージャーズMTGにて会話し、JFE商事/小笹氏より事務所へ提出いただいた。 日鉄物産のボールは工場内に入らず、特段対応無し。 |
| 役員会/高柳 | マネージャーズMTGでの取りまとめは非常に効果的なので、今後の試合の参考にさせていただきたい。 同意書は事務所に用意いただいていたが、念のため各チームが引き続き持参するようにしてもらいたい。 工場にボールが入った場合に備えて、各チームはボールに会社名を記入し管理することが望ましい。 |

3. 蜘蛛の巣グラフの共有

- 役員会/高柳 ピッチ内外の取組みの評価を行うものであり、これまでの状況を整理、共有したい。
- 伊藤忠/山田 不可日は上記の阪和興業不備以外は問題なし。
- 双日/佐藤 試合結果集計を担当するが、9/2開催分にて取り上げたい事案があり、問題提起したい。
三井物産vs兼松の試合において、MC宣誓がなかったが、MC報告書のサイン時に三井物産、兼松からは指摘なく満点評価だった。
事象としては、MC宣誓がなかったこと、MC報告書のサイン時に適切な評価がなかったこと、の2点。
現場ではルールに沿ったことをすべきだが、期日通りに提出されたため減点はなく、5点と記載。
- 役員会/高柳 審判の質を担保するための宣誓である。宣誓がなかったことはペナルティ対象。
MC報告書の承認がめくら判になっていたことも問題である。4社ともに責任のある事案になっている。
- JFE商事/小笹 JFEは1年目が今回MCを担当しており、宣誓前に主審により整列が促された。
- 日鉄物産/竹内 MC宣誓を逸ったという認識はなく、MCの自己紹介が終わった段階でピッチ中央での整列へ移った。
- 双日/佐藤 主審を務める日鉄物産もMC宣誓がないということに対してなにかしらのアクションは取れたはず。
JFEを庇うわけではないが協力してやるべきだった。
- 役員会/高柳 今後のペナルティに関しては、役員会にて協議を行い判断を下す。
- 日鉄物産/竹内 ML作成に関して、阪和興業と双日にアドレス登録不備があったため3点としている。その他チームは5点。
- 兼松/浅川 チームデータに関しては複数チームで不備があり、減点を行った。詳細は別途蜘蛛の巣グラフを参照。
- 役員会/高柳 本年度はチェックリストも作成したが、それでもミスが続いている。各チーム内でチェック体制を徹底いただきたい。

4. 役員会コメント

- 役員会/野間 阪和興業の事案、1試合目が出た事案を各チームに持ち帰り、今後の取組みに生かして欲しい。
- 役員会/浅井 MC不宣誓に関して、誰からも指摘がないことは問題である。役割を全うするうえで、他社をサポートする姿勢も大切にすべき。
金田会長のコメントをどのように受け止め、チームに落とし込むかを期待したい。

以上